

令和4年度冬期企画展

令和五年

拓くひとびと——狭山の奈良・平安——

一月七日(土) ～ 二月二十六日(日)



いずれも鳥ノ上遺跡出土墨書土器(部分)

開館時間 9:00-17:00 (最終入場 16:30)  
休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館)  
料金 一般 150円 (100円)、高大生 100円 (60円)、中学生以下無料  
( )内は20名以上の団体料金

- 各種障害者手帳提示で本人と付添1名まで無料
- 不織布マスクの着用と消毒・検温にご協力ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大等の状況により、 展覧会会期などが変更になる場合があります。最新情報は狭山市立博物館ホームページでご確認ください。

 狭山市立博物館

<https://sayama-city-museum.com>



〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1丁目23番地1

電話：04-2955-3804 FAX：04-2955-3811

〔指定管理者 アクティオ・東急コミュニティー共同事業体〕

狭山市には旧石器時代から人が住み、縄文時代には多くのムラがありました。しかしその後、人の気配は薄くなり次に集落が作られるようになるのは、8世紀から10世紀、奈良時代から平安時代のことです。入間川沿いの段丘上には、今宿遺跡や揚楯木遺跡など多くの遺跡がありますが、近年発掘調査が行われた鳥ノ上遺跡からは、住居跡177軒・掘立柱建物93棟（8世紀から9世紀）という大規模な集落が見つかりました。

奈良時代になって突然作られるようになったこれらの集落にはどのような人が住んでいたのでしょうか。古代の武蔵国に所属するこの地の重要なトピックスに、高麗郡建郡（716年）、国分寺建立の詔（741年）、新羅郡建郡（758年）があります。7世紀末の高句麗・百濟の滅亡による渡来人たちがこの地に配されたこと、国分寺建立という一大プロジェクトなどの政治的な影響により、この狭山の地に多様な技能を持つ人々が新たに移住したのかもしれませんが。

新しい土地で人々はどのように暮らしていたのでしょうか。文字の書かれた土器、糸をつむぐための紡錘車、馬具などが出土した鳥ノ上遺跡の様子からは、文字を知り、糸をつむぎ、馬に関わっていた人々が暮らしていたことがわかってきました。

最新の発掘調査の成果を中心に、狭山の地を拓いた古代の人々の暮らしを紹介します。  
※2018～2020年にかけて発掘調査が行われました。

①人面線刻土製品



②土馬



③馬具



④烙印「有」



⑥円面碗



⑤鳥形碗蓋

⑦烙印「田」



⑩くるる(柁)鉤



⑨羽口

⑧椀形洋・鉄滓

- ① 人面線刻土製品（稲羅遺跡 深谷市教育委員会所蔵）
- ② 土馬（新井原遺跡 飯能市教育委員会所蔵・画像データ提供）
- ③ 馬具（鳥ノ上遺跡 狭山市教育委員会所蔵）
- ④ 烙印「有」（円山遺跡 熊谷市教育委員会所蔵）
- ⑤ 鳥形碗蓋（王神遺跡 日高市教育委員会所蔵）
- ⑥ 円面碗（高岡原寺 日高市教育委員会所蔵）
- ⑦ 烙印「田」（東の上遺跡 所沢市教育委員会所蔵）
- ⑧ 椀形洋・鉄滓（白山遺跡 深谷市教育委員会所蔵）
- ⑨ 羽口（白山遺跡 深谷市教育委員会所蔵）
- ⑩ くるる(柁)鉤（白山遺跡 深谷市教育委員会所蔵）

関連イベント

■狭山市立博物館 令和4年度 第2回歴史文化講座

「奈良・平安の狭山」

「今宿遺跡、宮ノ越遺跡、鳥ノ上遺跡、揚楯木遺跡を中心として」

開催日時 十月22日(日) 13:30から

開催場所 狭山市立博物館 研修講義室

講師 狭山市文化財保護審議会委員 元日高市職員 中平 薫氏

定員 40名

参加費 300円

申込み 令和5年1月7日(日)から 電話または来館

■工作教室「冬のまいいい体験講座」

人気の砂絵や展覧会限定工作もあります！

当日先着順  
整理券配布  
人数制限あり

開催期間中の土・日・祝日

受付時間①10:30～11:45

②13:30～14:45

参加費 200～400円

絵付け貝殻



■アクセス



- 西武鉄道池袋線「稲荷山公園駅」より徒歩約3分。
- 西武新宿線「狭山市駅」西口よりバス「稲荷山公園駅行」終点下車、徒歩約3分。
- 圏央道狭山日高インターチェンジより車で約15分  
(ご来館はなるべく公共交通機関をご利用ください)